

～14号～2014年3月1日発行～

*10代、20代、30代以上の不登校・ひきこもりの方の社会参加を考えるNPO法人です。

ポラリス通信

～不登校・ひきこもりの対応ニュース～

訪問サポート・トカネット代表藤原宏美

■トカネット・無料個別相談を行います。(対応/代表藤原宏美)

◆期間/3月16日(日)・17日(月)・18日(火)・29日(土)

◆時間/午前10時～と午後14時～の2回

◆予約制/前日までの予約制/E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp

◆人数/お申し込順で8名様まで / 090-4953-6033(藤原)

昨日、不登校で中学3年生の子供のメンタルフレンドをしている女子大生と話しをしました。彼女も、不登校経験者です。仲よくかわれるようになってきたのに、

ここにきて子供の様子がとてもおかしいのです。ふさぎ込んで、家族ともあまり口をききません。そうかと思えば、イライラして物にあたることもあります。昼間は寝ていることが多くなりました。

毎年、今頃の時期になると不登校の子どもには、新学期に向かって「孤独のカウントダウン」が始まっていると、メンタルフレンドの学生は言いました。自分の経験からでた言葉でしょう。今の時期は同級生たちが進級・進学していく中、自分だけ取り残されていくような不安と闘っている苦しい時期だと思います。

先日、親しくしている支援機関の代表と「就労体験」の場があるといいですねと、話していたら、早速知り合いの介護施設に話を持っていき、企画を進めてくれました。

オーナーがひきこもりの問題に理解があり、そこでは、元ひきこもりの人が働いているそうです。

どんな仕事なのか、自分に務まるのかわからないままいきなり就職はきついけど、まずは、自分たちの状態を理解してくれる場で、就労体験から始めることができるのはありがたいことです。

◆4月26日(土)午後。横浜市内の介護施設。参加費500円。年齢制限なし。

募集は5人くらいです。

就労に関して前向きに考えている人を望んでいて、もし、条件等が合う方がおられましたら、「採用」の可能性もあるようです。

詳細がきまりましたら、次回のポラリス通信と、トカネットのホームページ「新着情報」などでお知らせいたします。

昨日、センターに作業に来られている当事者の方々に話したら、関心をもって聞いておられました。

子どもの自立の兆候を示す言葉は見逃されやすい

松田武己

親は当然のことですが、子どもの自立を望んでいます。子どももまた自立できることを自然に望んでいるものです。親にはそれが信じられなくなることがあるようです。子どももそういう言葉をいわなくなる状態が続くと自分でもはたして自立を望んでいるのか疑わしいと思うこともあります。理解の悪循環です。

子どもはその兆候を示したことがあるのです。そのとき親はそれを見逃したものと思います。むしろとんでもない方向に向かっていると逆に理解してきたかもしれせん。子どもの表現は親が望む形で、親が望む方向で、親が望む程度や親が望む速度では表現されないことがほとんどだからです。

子どもの自立とは、親の望みとは別物のはずですし、親もそれは承知しているはずで。それなのになぜ見逃しやすのでしょうか。それは子どもの表現が斜に構えたものや反抗的になるからです。受け取る親はそれへの対抗する気持ちが優先し、子どもの示す自立の兆候とは気づかないのです。

私の知る範囲のことですが、不登校や引きこもりの子どもが親の望む形で「いままで引きこもっていてすみませんでした。これからは親の望むような自立の道を進みます」というところから、自立に進んだ人は一人もいません。これからはいないはずで。

なぜなら自立とは何よりも親からの自立であり、そのとき子どもの頭の中に占める自立のテーマは「親をいかに超えるのか」になるからです。もう少し普通に表現すれば、「親をいかに低く見るのか」になるからです。

私の息子が中学生の頃、朝早く「おい、カラッキシ！ 今日ゴミの日だから袋に入ってゴミと一緒に並んでいたらどうだ」と来たことがあります。いま思い出してもおかしくなります。カラッキシとは、前日にでも覚えたばかりの言葉でしょう。思いっきり親をおとしめる表現に腐心した兆候があります。まさに反抗期らしい表現です。

引きこもりになる子どもの表現はこれよりもかなり穏やかであるか、逆に追い込ませて切迫した強い言葉になりがちです。そう心得ておくといいでしょう。

思春期の終わりに反抗期がセットされているのは、親を乗り越えることが不登校や引きこもりの子どもに固有の自立方法ではなく、人間一般の成長コースであることを示しています。

子どもの反抗的な態度が見えたときこそチャンスです。そのときこそ親としての力量が示されるときです。とりあえず子どもの反抗表現を「オッ、来たか！」と思えばいいのです。それは十代の子どもに限ったことではありません。20代でも30代でも同じ面があります。できればどう表現してくるのかおもしろがりましょう。

いろいろな日程をお知らせします

◆3月11日（火）3時から「セルスサービスカフェ」。引きこもり経験者で臨床心理士のOさんと話す会。参加費は10円以上のカンパで。

◆3月13日（木）、島田邦子さんのカラーセラピーの日。予約制です。

◆3月22日（土）2時から、製本教室＋編集作業。コミティアに出展する作品の話し合いと制作をします。創作をしている方は来てみませんか。

◆3月27日（木）、アンデパンダン展（六本木の国立新美術館）を見学。2時からの「公開創作研究会」をのぞいてみます。一緒に行く人を募集します。＝招待券あり。

会報『ポラリス通信』へのカンパのお願い

一昨年の終わりから『ポラリス通信』を不登校情報センターの会報にしています。会員だけではなく、相談や問い合わせの人にもなるべくお送りしてきました。そして送り先が増えてきました。いろいろな会合への参加者が増えていきますし、参加できなくてもつながっていたい人もいます。しかし、送料負担などで問題も生まれています。

（1）できるだけ多くの方に会員になっていただくようにお願いします（入会金3,000円、年会費6,000円）。賛助会員（年会費5,000円）もあります。

（2）会員になるほどではないけれども、資金カンパなら出来るという人はお願いします。

（3）『ポラリス通信』を不要とする方は、別紙で申し出ていただくと送付先のリストから外します。

（4）会員になるのか決めかねる、『ポラリス通信』が不要かどうかはわからない人が多いものと思います。そういう方はこれまで通りに送らせていただきます。特に手続きは要りません。

（5）すでに会員になっている方には、これまで通りにお送りします。

*以上をまとめて、同封しました。どれを選択してもかまわないです。

◆今後のお知らせ

(1) 「訪問サポート（メンタルフレンド）説明と質問会」

●うちの子は誰にも会わないと、あきらめないで下さい。

メンタルフレンドとかかわって、不登校やひきこもりの子供たちが、学校やバイトなどを含めた多様な形で社会と繋がっていきます。

まずは、一緒に考えましょう！！

*日時：3月30日（日）、13時～15時30分。

*参加費：500円。 *対象：不登校・未就労の子供の親

(2) 第18回不登校・未就労の対応「ミニセミナー&質疑応答の会」

●何が子供におきているのか。●親が出来る事。●安心出来る人間関係を作っていくこと。●モチベーション・自己肯定感を上げていくこと。●学校復帰・バイト・友達づくりなどの社会参加につなげていくこと・・・など専門家と一緒に考えていきます。

*日時：3月23日（日）、13時～16時。

*参加費：500円

*対象：10代および20代前半の子供の親・体験者・学びたい人

(3) 「大人のひきこもりを考える教室」

*レクチャー：高年齢になった引きこもりの困難を開く道

*日時：3月9日（日）、13時～15時。

*参加費：500円

*対象：親・体験者・学びたい人

◎上記は、全て予約制です（連絡先は下記まで）。

◎場所：NPO 法人不登校情報センター（総武線「平井」駅南口・徒歩5分）

◎地図はHP参照。



●NPO 法人不登校情報センター

●訪問サポートトカネット

【発行元】 ポラリス通信編集部

〒132-0035 東京都江戸川区平井 3-23-5-101

連絡先

TEL／03-5875-3730／090-4953-6033（藤原）

E-mail／tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp

URL／<http://www.futoko.info/tokanet/>